

令和6年度

歳入歳出決算概要説明

三重県

令和6年度 歳入歳出決算概要説明

令和6年度一般会計及び特別会計歳入歳出決算につきまして、
1 全体の概要 についてご説明申し上げます。

(一般・特別会計の歳入・歳出の状況)

歳入について、歳入決算額は、

一般会計で、8,850 億円

特別会計で、3,252 億円

合 計 1 兆 2,102 億円

となっています。

前年度の決算額と比べますと、

一般会計で、37 億円、0.4%の増加

特別会計で、91 億円、2.7%の減少

となっています。

歳出について、歳出決算額は、

一般会計で、8,492 億円

特別会計で、3,217 億円

合 計 1 兆 1,709 億円

となっています。

前年度の決算額と比べますと、
一般会計で、99 億円、1.2%の増加
特別会計で、91 億円、2.8%の減少
となっています。

(一般会計の決算内容)

次に、2 一般会計の決算内容のうち、歳入の増減の主なものについて、ご説明申し上げます。

まず、県税収入は、3,074 億円で、前年度と比べ 133 億円、4.5%増となっています。物価上昇の影響による地方消費税の増や、好調な法人業績による法人事業税の増などにより増加しています。

地方消費税清算金は、910 億円で、前年度と比べ 23 億円、2.6%増となり、全国的な地方消費税収の増により増加しています。

地方譲与税は、411 億円で、前年度と比べ 48 億円、13.1%増となり、原資となる国税の増により増加しています。

地方特例交付金は、65 億円で、前年度と比べ 53 億円、439.3%増となり、定額減税減収補填特例交付金により増加しています。

地方交付税は、1,707 億円で、前年度と比べ 38 億円、2.3%増

となり、普通交付税の追加交付額の影響などにより増加しています。

国庫支出金は、956 億円で、前年度と比べ 202 億円、17.4%減となり、新型コロナウイルス感染症関連の交付金の減などにより減少しています。

繰入金は、146 億円で、前年度と比べ 124 億円、46.0%減となり、財政調整基金繰入金の減などにより減少しています。

繰越金は、364 億円で、前年度と比べ 91 億円、33.1%増となり、前年度から繰り越すべき財源の増などにより増加しています。

続きまして、収入未済額・不納欠損額について、ご説明申し上げます。

収入未済額は、111 億円で、前年度と比べ 2 億円、2.1%増となり、主なものとしては、諸収入で 85 億円、県税で 26 億円などがあります。

また、不納欠損額は、1.6 億円で、前年度と比べ 0.4 億円、19.6%減となり、その内訳は、県税で 1.4 億円、諸収入で 0.2 億円とな

っています。

次に、歳出の増減の主なものについて、ご説明申し上げます。

総務費は、487 億円で、前年度と比べ 98 億円、16.7%減となり、財政調整基金の積立金の減や、退職手当基金の積立金の減などにより減少しています。

民生費は、1,234 億円で、前年度と比べ 28 億円、2.3%増となり、老人医療対策費の増や、保育所事業費の増などにより増加しています。

商工費は、129 億円で、前年度と比べ 90 億円、41.0%減となり、経営基盤確立事業費の減や、国内誘客推進事業費（繰越）の皆減などにより減少しています。

土木費は、1,063 億円で、前年度と比べ 67 億円、6.7%増となり、「防災・減災、国土強靱化のための 5 か年加速化対策」などの国直轄・国補公共事業の増や、県単公共事業の増により増加しています。

警察費は、458 億円で、前年度と比べ 66 億円、16.9%増となり、

警察庁舎整備費の増などにより増加しています。

教育費は、1,672 億円で、前年度と比べ 74 億円、4.6%増となり、教職員退職手当の増などにより増加しています。

諸支出金は、1,440 億円で、前年度と比べ 76 億円、5.6%増となり、地方消費税・都道府県清算金の増や、株式等譲渡所得割・市町交付金の増などにより増加しています。

次に、翌年度繰越額は、632 億円で、前年度と比べ 55 億円、8.0%減となり、主な内訳としては、土木費で 396 億円、農林水産業費で 134 億円などがあります。

繰越が発生した主な要因としては、国の補正予算の内示が年度後半になったことなどによります。

不用額は、106 億円で、前年度と比べ 23 億円、17.8%減となり、主な内訳としては、民生費で 20 億円、教育費で 20 億円、総務費で 16 億円、衛生費で 16 億円などがあります。

(特別会計の決算内容)

続いて、3 特別会計の決算内容 について、ご説明申し上げます。

歳入について、収入済額は、3,252 億円で、前年度と比べ 91 億円、2.7%の減少となっています。

各会計の内訳は、中段の（歳入の内訳）会計別の表をご覧ください。

次に、歳出について、支出済額は、3,217 億円で、前年度と比べ 91 億円、2.8%の減少となっています。

各会計の内訳は、中段の（歳出の内訳）会計別の表をご覧ください。

（一般会計・特別会計の収支）

4 一般会計・特別会計の収支 ですが、歳入決算額から歳出決算額を差し引いた形式収支額から、明許繰越等により翌年度へ繰り越すべき財源を差し引いた実質収支は、

一般会計で、 99 億円

特別会計で、 35 億円

合 計 133 億円

の黒字となっています。

次に、実質収支額の処分でございますが、地方自治法第 233 条の 2 の規定により、一般会計の黒字 99 億円については、2 分の 1 相当額の 49 億 4 千万円を 7 月 31 日に財政調整基金に積み立てたところです。

その残額の 49 億 4 千万円と

特別会計の黒字額 35 億円

については、令和 7 年度に繰り越します。

以上をもちまして、令和 6 年度一般会計及び特別会計歳入歳出決算の概要説明を終わらせていただきます。

なにとぞ、よろしくご審議いただきますようお願い申し上げます。

(参考)

実質収支に関する総括表

(単位:円)

区 分 \ 会 計 別		一 般 会 計	特 別 会 計 (11 会 計)	合 計
1 歳 入 総 額		884,993,024,385	325,180,946,350	1,210,173,970,735
2 歳 出 総 額		849,177,492,924	321,703,984,593	1,170,881,477,517
3 歳 入 歳 出 差 引 額		35,815,531,461	3,476,961,757	39,292,493,218
4 翌 年 度 へ 繰 り 越 す べき 財 源	① 繰越明許費繰越額	25,939,613,654	20,756,000	25,960,369,654
	② 事故繰越し繰越額	0	0	0
	計	25,939,613,654	20,756,000	25,960,369,654
5 実 質 収 支 額		9,875,917,807	3,456,205,757	13,332,123,564
6 実 質 収 支 額 の う ち 地 方 自 治 法 第 233 条 の 2 の 規 定 に よ る 基 金 繰 入 額		4,940,000,000	0	4,940,000,000